

メンタルヘルス問題のある親による児童虐待

—児童福祉施設・相談機関への量的調査に基づくその実態と支援課題—

川崎医療福祉大学 松宮透高 (2749)

キーワード：児童虐待 メンタルヘルス ソーシャルワーク

1. 研究目的

本研究は、児童虐待の発生要因の一つとされる親のメンタルヘルス問題に着目し、その実態および支援上の課題を明らかにすることを目的としている。昨年度報告した探索的な事例調査に続き量的調査を実施したので、本発表ではその知見を中心に報告する。

なお、この調査は明治安田こころの健康財団 2008 年度研究助成を受けて実施した。

2. 研究の視点および方法

児童虐待の発生要因のひとつとして、「親の精神障害」が指摘されることが多い。1980年代から虐待者にはアルコールや薬物、性格の問題や人格障害、知的障害、精神疾患などの問題が高率に認められている（小野 2001：18）とされ、国内外の先行研究から虐待する親の 30～70%に精神障害が見られる（吉田・長尾 2008：83）という。児童相談機関における調査では、虐待者の約 3 分の 1 から半数弱に精神科への通院歴があり（岡本ほか 2006：155）、周産期のうつ病とネグレクトの関係についても多くの文献が言及するなど、親の精神障害は児童虐待のリスク要因と認識されている。

しかし、この問題に焦点を当てた研究の多くは医療・保健領域のものであり、その対応についても親への治療的介入や被虐待児童への心理的支援など、いわゆる医学モデルに基づくアプローチに論点が集中するきらいがある。ソーシャルワークとりわけ精神保健福祉の視点に立つ研究は少なく、福祉現場における支援課題も明らかではない。

そこで、児童福祉施設・機関を対象とする 2 つの調査を実施した。調査 I では、家庭支援専門相談員（ファミリー・ソーシャルワーカー）を配置する児童福祉施設、すなわち①児童養護施設、②乳児院、③情緒障害児短期治療施設、④児童自立支援施設を対象とした。調査 II では、相談支援機関としての①児童相談所、②児童家庭支援センターを調査対象とした。いずれも名簿をもとにした悉皆調査とし、調査票を郵送にて送付・回収した。

3. 倫理的配慮

調査によって得られたデータは統計的に処理し、回答者・機関が特定できないよう配慮した。調査依頼時にもその旨を提示した。記名回答者には結果の抄録を発送予定である。

4. 研究結果（抄）

①回収率は 44.7%であった。回答者の属性では、児童福祉経験年数が相談機関で短い。社会福祉士などの資格所持者は施設 16.1%、児童相談所 22.5%であった。

- ②入所・相談ケース中、被虐待児童の比率は福祉施設 49.1%、児童相談所 28.1%、児童家庭支援センター47.0%。精神医学的診断を経ない回答を含めると、施設入所児童の34.8%の親にメンタルヘルス問題があると認識されていた。親にメンタルヘルス問題があり、かつ虐待を受けていた児童は入所児童の22.6%で、被虐待入所児童の46.1%にあたる。なお、何らかの障害がある入所児童は26%で、そのすべての障害種別で障害の無い児童の被虐待率46.2%より高く、特に発達障害児で63.1%と、率・人数とも顕著。
- ③虐待した親のメンタルヘルス問題について、児童福祉施設では24.5%をうつ病などの感情障害が占め、他は知的障害14.1%、統合失調症12.5%、人格障害11.9%などであった。相談機関も同様に感情障害が最多であった。なお、問題はあるが診断も無く詳細不明とするケースは、いずれの調査でも20%以上と大きな比率を占めている。
- ④虐待種別は、児童福祉施設でネグレクトが56.0%、身体的虐待が29.9%を占める。相談機関ではネグレクトよりも身体的虐待の相談が同等かそれ以上みられる。
- ⑤児童福祉施設では、主な虐待者は母親が65.6%を占めるが、母子世帯が過半数のうち7割は母親以外の成人同居者がいないという背景もある。また、当該児童を含む世帯の44.6%が生活保護受給、36.4%が非課税低所得世帯であった。
- ⑥メンタルヘルス問題について、相談機関の回答者の約20%が経験・知識がほとんどなく施設職員も26%以上が理解できていない。機関連携を重視しつつも、実際には連携上の問題がある。メンタルヘルス問題のある親との関わりはストレスになるとする回答が過半数。施設・機関とも精神保健福祉士の配置はほとんど無く、配置の必要性も高くは感じられていない。さらに連携できていないとする回答も59.3%。親にメンタルヘルス問題があるためのニーズに沿った支援は、施設・相談機関とも十分に提供できていない。

5. 考察

メンタルヘルス問題のある親と児童虐待との関係が強く認識されるが、この「メンタルヘルス問題」と精神科医療・福祉が主な対象としてきた「精神障害」との間には差異がある。また、児童福祉と精神保健福祉との連携は、重視される一方で希薄である。人員配置はじめ研修の不十分さなどもあり、支援者はこの問題に困難とストレスを感じている。精神保健福祉機関・専門職はこの問題を認識した上で児童福祉領域と連携を深め、親とその子どもの双方を視野に入れた支援体制づくりをともに構築すべきである。

6. 引用文献

- ・小野善郎（2001）「精神障害を持つ養育者と児童虐待－母親のうつ病を中心にその関連性を探る」『生活教育』45（7）。
- ・吉田敬子・長尾圭造（2008）「養育者に精神疾患がみられる場合の虐待事例への支援－支援スタッフに潜む問題と周産期からの予防－」『子どもの虐待とネグレクト』10（1）。
- ・岡本正子ほか（2006）「虐待する親・家族機能の質的評価と虐待進行の予防的支援方法に関する研究」平成16年度厚生労働科学研究費補助金報告書。